

2021年3月期 第2四半期 業績概要

窪田 顕文

アンリツ株式会社
取締役
専務執行役員 CFO

2020年10月29日



東証第1部 : 6754
<https://www.anritsu.com>



Anritsu
envision : ensure

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

- I. 事業概要
- II. 2021年3月期第2四半期 連結決算概要
- III. 2021年3月期 通期業績予想（連結）
- IV. 5Gの市場トレンドと当社の取組について

I. 事業概要

T&M事業

ネットワーク社会の進化・発展

- ▶ モバイル市場 : 5 G, LTE
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : 有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備



PQA事業

食の安全・安心

- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出機
- ▶ 重量選別機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率) 2020年3月期 実績 (連結) : 1,070億円

T&M 70%			PQA 21%	その他 9%
モバイル 56%	ネットワーク・インフラ 25%	エレクトロニクス 19%		

(T&M事業 地域別売上比率)

日本 22%	アジア、パシフィック 44%	米州 22%	EMEA 12%
-----------	-------------------	-----------	-------------

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

Ⅱ - 1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比増収、増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	536	540	4	1%
売上高	498	522	24	5%
営業利益	66	98	32	48%
税引前利益	64	97	33	53%
当期利益	47	71	24	51%
当期包括利益	34	71	37	111%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

Ⅱ - 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

➡ T&M：5G商用化、データセンター需要が順調で増収増益

PQA：新型コロナウイルスの影響で減収も増益 (単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
T&M	売上高	352	375	23	7%
	営業利益	59	90	31	52%
PQA	売上高	107	104	△3	△3%
	営業利益	5	7	2	53%
その他	売上高	39	43	4	8%
	営業利益	7	5	△2	△21%
調整額	営業利益	△4	△4	0	-
合計	売上高	498	522	24	5%
	営業利益	66	98	32	48%

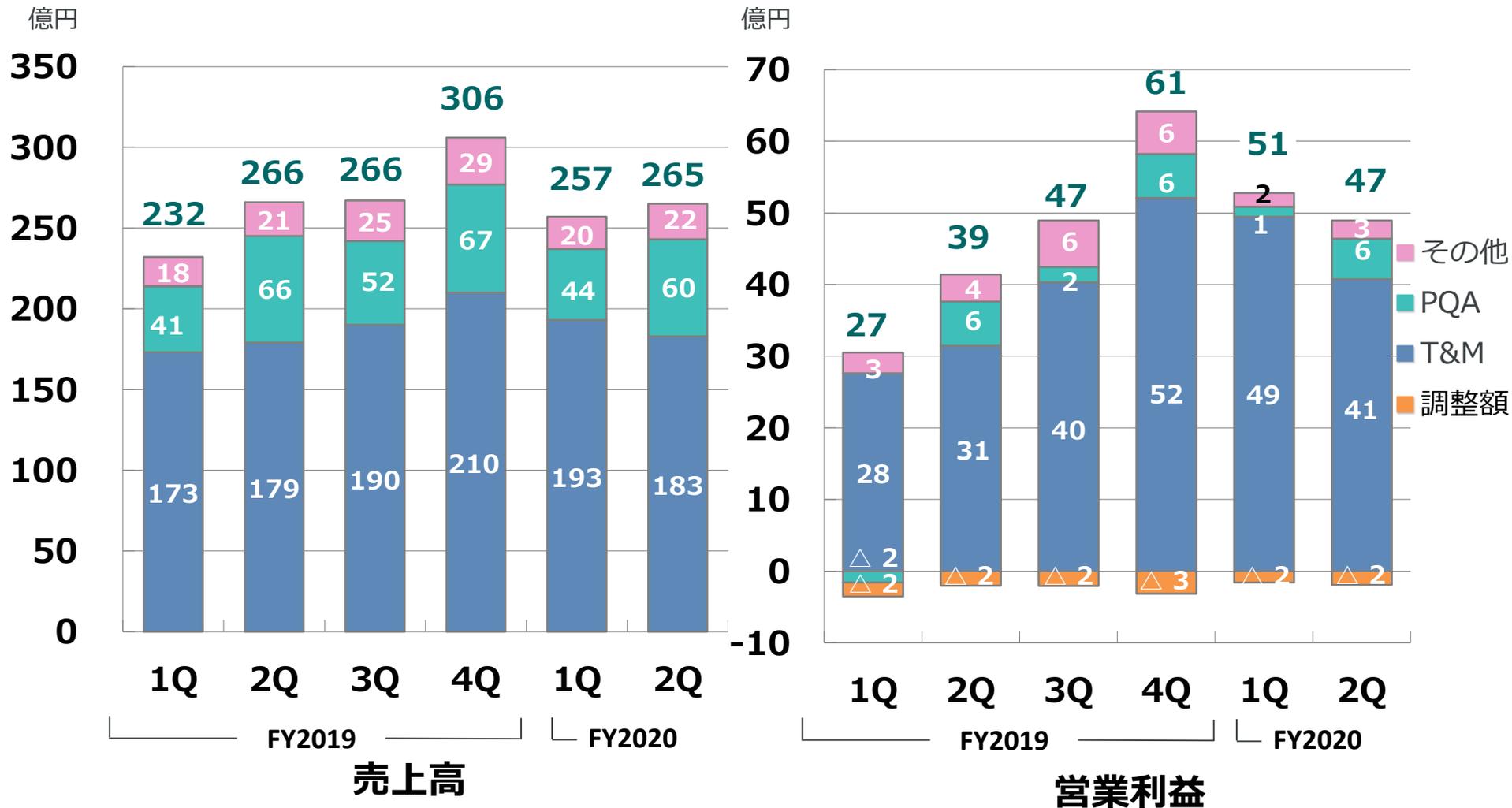
(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

Ⅱ - 3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

➡ 2Q(7-9月)営業利益率：連結18%，T&M22%，PQA10%



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

Ⅱ - 4. 事業別営業概況

セグメント 2021年3月期（4月-9月）の状況

 **T&M** : 5G商用化スケジュールおよび
データセンター高速化が順調に進展

モバイル	5G開発の需要が順調に推移
------	---------------

ネットワーク インフラ	データセンター等への投資が拡大
----------------	-----------------

アジア他・日本	5G商用化に向けた投資拡大
---------	---------------

米州	5Gサービスの今後のエリア拡充に注視
----	--------------------

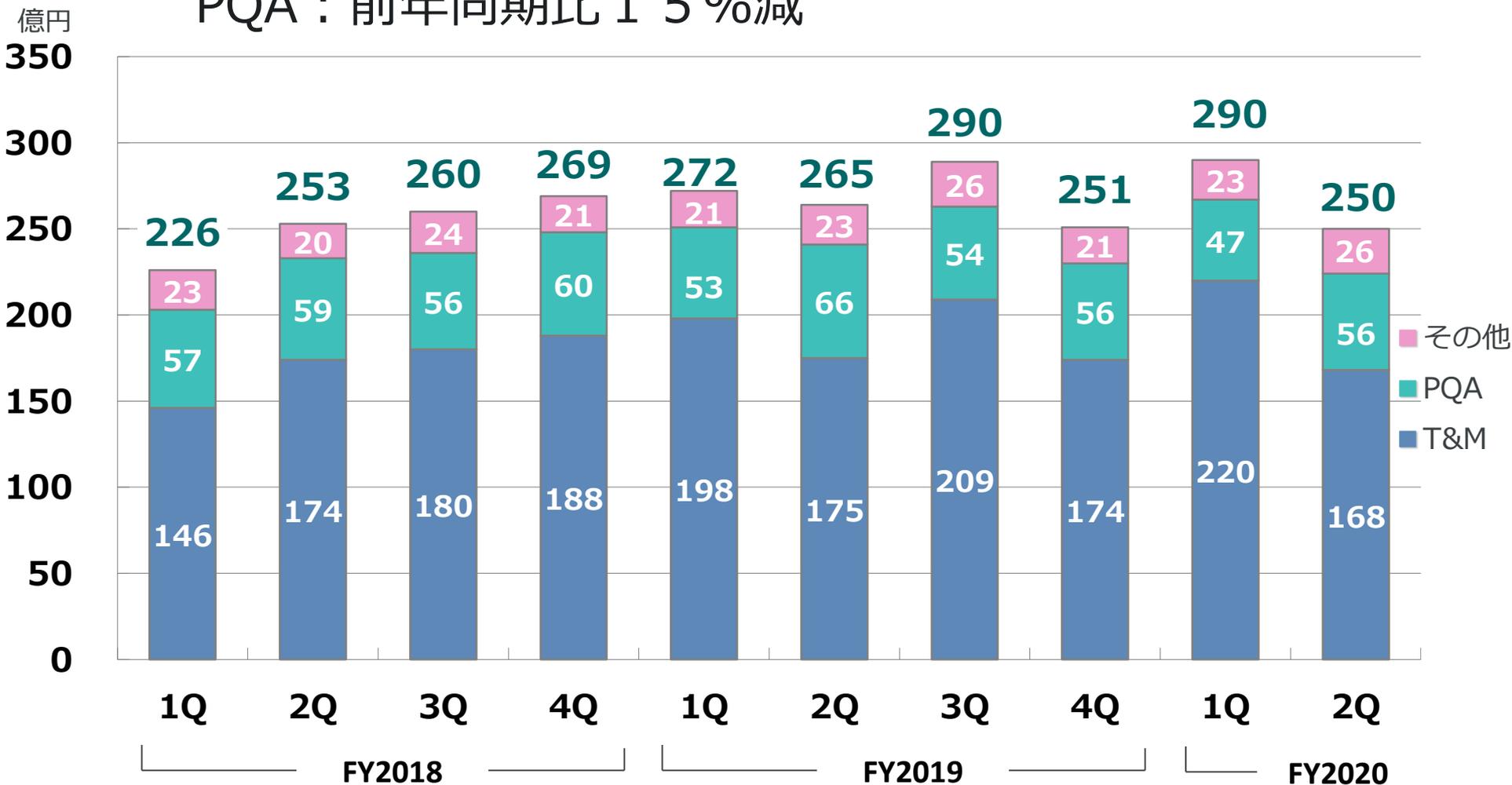
 **PQA** : 食品市場では新型コロナウイルス感染拡大に伴う
先行きの不透明感から一部の顧客が設備投資に慎重な姿勢

T&M : Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

Ⅱ - 5. 受注高推移

➡ T&M：前年同期比4%減

PQA：前年同期比15%減

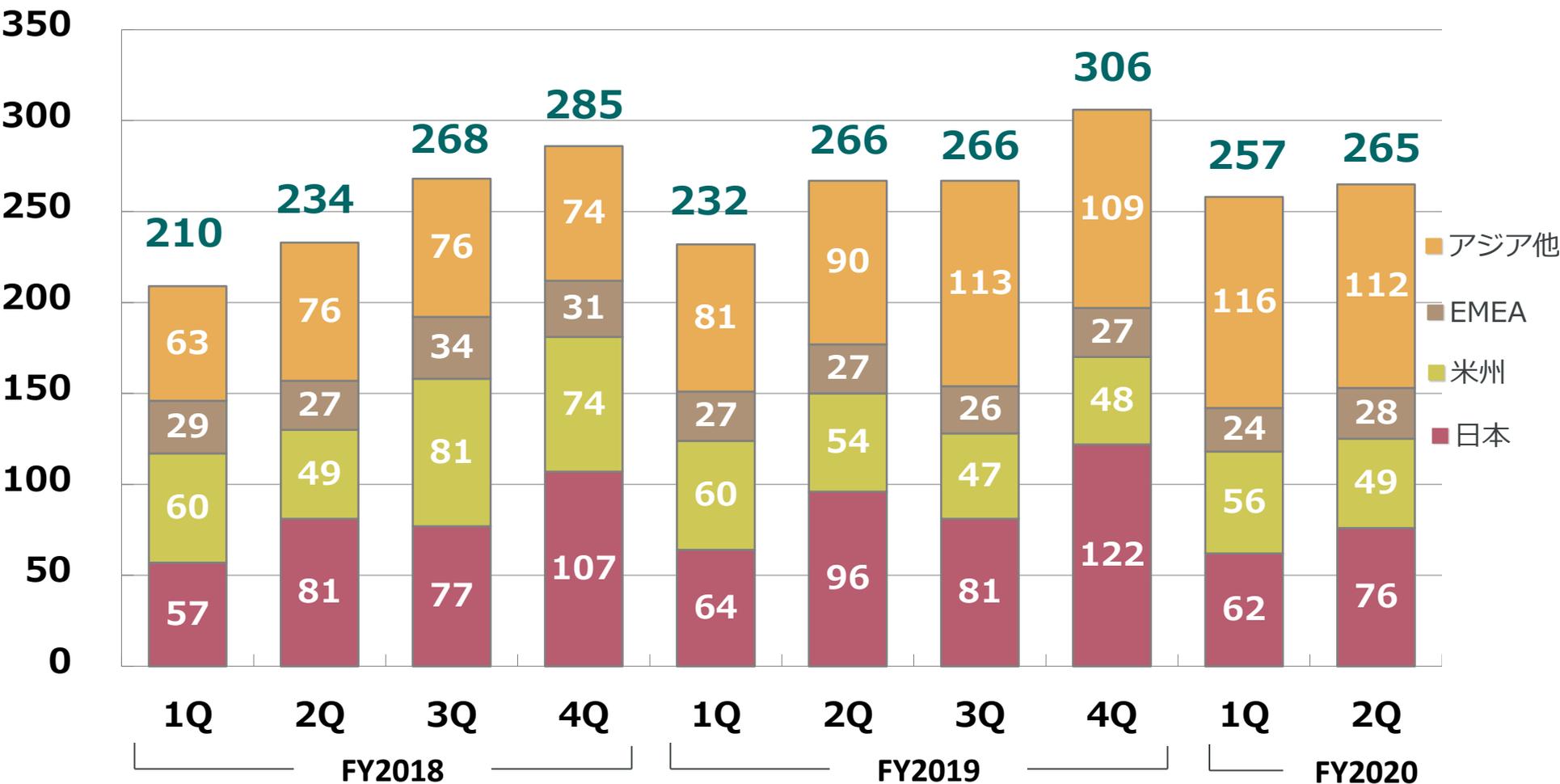


(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

Ⅱ - 6. 地域別売上高推移

▶ アジアで5G商用化、データセンター関連の需要が好調

億円



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

II - 7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率25.6%

内訳

(単位：億円)

FY2020 2Q

- ①営業CF： 134億円
- ②投資CF： △25億円
- ③財務CF： △112億円

フリーキャッシュフロー

(① + ②)： 108億円

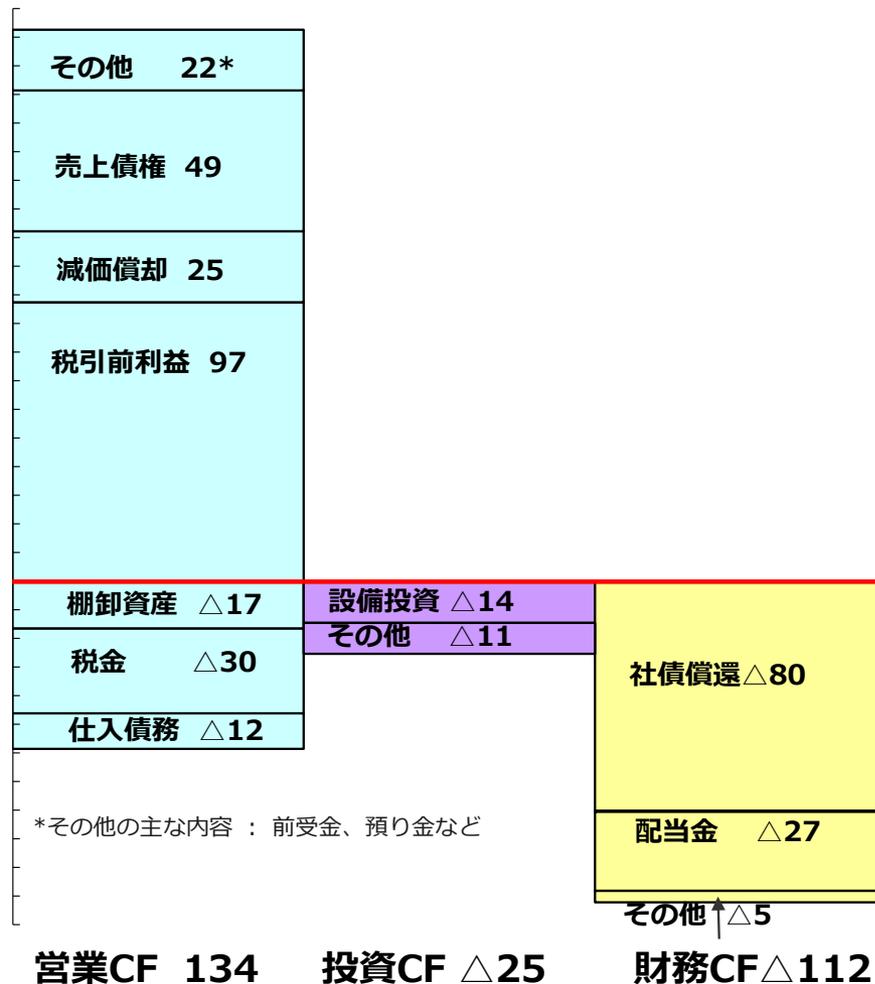
現金同等物期末残高

472億円

有利子負債高

66億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



Ⅲ. 2021年3月期 通期業績予想（連結）

➡ 4月27日の公表値から変更なし

（単位：億円）

		2020/3期	2021/3期		
		前期実績	通期予想	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
売上高		1,070	1,100	30	3%
営業利益		174	175	1	0%
税引前利益		172	175	3	2%
当期利益		134	135	1	1%
T&M	売上高	752	770	18	2%
	営業利益	151	155	4	2%
PQA	売上高	226	240	14	6%
	営業利益	13	18	5	40%
その他	売上高	93	90	△ 3	△ 3%
	営業利益	19	12	△ 7	△ 37%
調整額	営業利益	△ 9	△ 10	△ 1	-

（参考）FY19 為替レート : 1米ドル109円、1ユーロ=121円
 FY20 想定為替レート : 1米ドル105円、1ユーロ=120円

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

IV. 5Gの市場トレンドと 当社の取組について

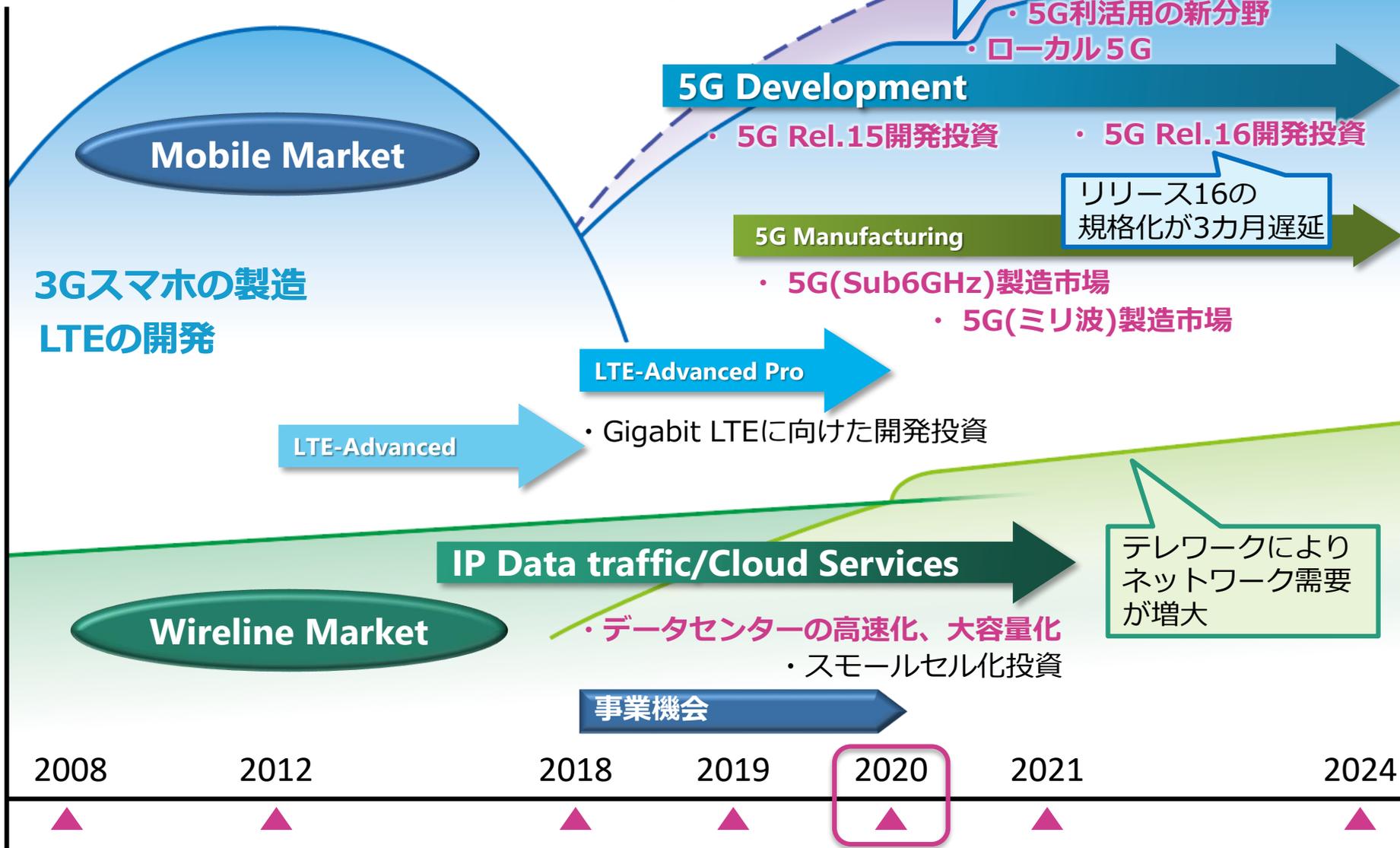
アンリツ株式会社
代表取締役 社長

濱田 宏一

IV-1. 計測市場トレンドと事業機会

コロナの影響により
半年程度5Gが停滞

市場規模



2020/10時点

IV-2.世界の5G状況

- 中国先行が鮮明に
- 米中貿易摩擦の影響で欧州市場の5Gが減速の懸念
- ミリ波の技術的課題により韓国が減速の懸念
- アメリカはサブ6に方針転換で追い上げ



欧州

- ➖ 英国,仏国等Huawei排除の動き拡大によりオペレータ負担増で5G普及減速懸念
- 欧州員会が早期の5G展開呼び掛け



中国

- ⊕ 5G加入者はすでに1億人以上
- ⊕ 5G基地局 41万局
- ⊕ 7月新規販売端末の62%が5G
- ⊕ 世界の5Gスマホの75%が中国メーカー製



インド/東南アジア/オセアニア

- 豪州,タイ,フィリピン等5G開始
- ➖ インドがHuawei/ZTE排除を決定
- 5Gの本格普及は2022年以降予想



韓国

- ➖ 5G加入者680万人も顧客不満拡大「繋がらない」「料金に見合わない」
- ➖ 年内のミリ波サービス開始を延期



US

- ➖ VzWのミリ波 5G は加入者伸び悩み
- ⊕ TMOは サブ6 5G加入者急増で躍進
⇒ VzW, ATTもサブ6 注力に方向転換
- ⊕ 米政府 3.5-3.6GHzに続き3.4-3.5GHzを開放
- ⊕ iPhone12発売



日本

- 5G加入者は33万人(6月末)
- 総務省5G基地局整備計画前倒し
- ドコモは21年3月 250万人目標 (SBは23年180万人目標)
- 各社とも2021年のSA開始を計画
- NTTがドコモ完全子会社化を発表

IV-3. Rel-16、Rel-17ダイジェスト

* 出所：一般公開情報を参考に当社作成



CY2018

CY2019

CY2020

CY2021

Release15

Release16

Release17



Extreme Mobile Broadband

Ecosystem Growth

産業用IoT



- 高いレジリエンス (CoMP、multi-TRP等による複数の通信経路の確保)
- **NR-U** : 免許不要な周波数帯の利用 (5GHz帯、6GHz帯)
- ローカル5G (非公共ネットワークの仕組み導入)

- 産業用IoT “**NR-Light**”の導入 (監視カメラやウェアラブル端末のMTC向け)
- 60GHz帯のNR-U

クルマ、その他



- 超高信頼性低遅延通信の強化
- TSN*による時刻同期をサポート
- 高精度の測位機能 (数mの精度)

- 高精度の測位機能 (数10cmの精度)

- **5G V2X** : C-V2Xの強化

- **サイドリンク通信**の強化 (基地局不要の機器間通信に対応)
- V2X向けマルチキャスト
- 非地上ネットワーク (衛星の活用他)

Broadband enhancement

ネットワークの発展



- **IAB** : アクセスとバックホールの統合 (ミリ波を基地局間の接続にも使用)
- 無線と有線のコンバージェンス

- 52.6GHz超の周波数利用 (71GHzへの拡張)
- ネットワークスライシングの強化
- ネットワークオートメーションの強化

デバイスの機能強化



- 電力消費量低減を支援する機能
- Massive MIMOの強化 (マルチユーザMIMO)

- さらなる電力消費量低減機能
- さらに強化されたMIMO
- マルチUSIM対応
- クラウドゲームのQoS向上

NR-U: NR-Unlicensed IAB: Integrated Access and Backhaul

*TSN (Time Sensitive Networking) : 元々は、イーサネット通信において、時間の同期性を保証しリアルタイム性を確保できるようにしたネットワークの規格

IV-4.ローカル5G

日本ではローカル5Gとして新たに導入され、海外ではプライベートLTEの発展形として期待される。



AGV: Automatic (Automated) guided Vehicle

引用：ローカル5G検討作業班 報告書骨子案 総務省 総合通信基盤局電波部 移動通信課

IV-5.ローカル5G こんなところでアンリツが活躍

リモート操作の遅延測定

ロボットのリモート操作の為の遅延時間を測定



MT1000A ネットワークマスタ プロ

基地局性能試験や通信エリア測定

通信エリアの電界強度測定



ML8780A/81A エリアテスタ

基地局性能試験



MS2840A/50A シグナルアナライザ

電波干渉の測定

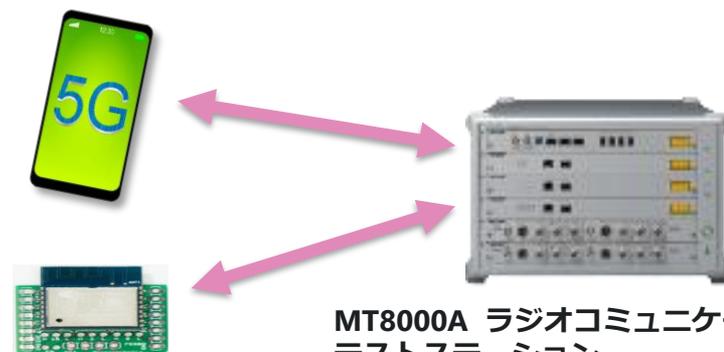
ローカル5Gエリアの重複による電波干渉を測定



MS2090A フィールドマスタ プロ

端末やセンサーモジュールの性能試験

端末やセンサーモジュールの無線特性、プロトコルを試験



MT8000A ラジオコミュニケーション
テストステーション

Anritsu
envision : ensure